

新潟焼山の火山活動解説資料（令和元年7月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 表面現象の状況（図2、図3-①、図4～5）

噴煙活動は低下した状態で経過しています。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上80m以下で経過しました。

・ 地震や微動の発生状況（図3-②、図6～8）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図1、図3-③④）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

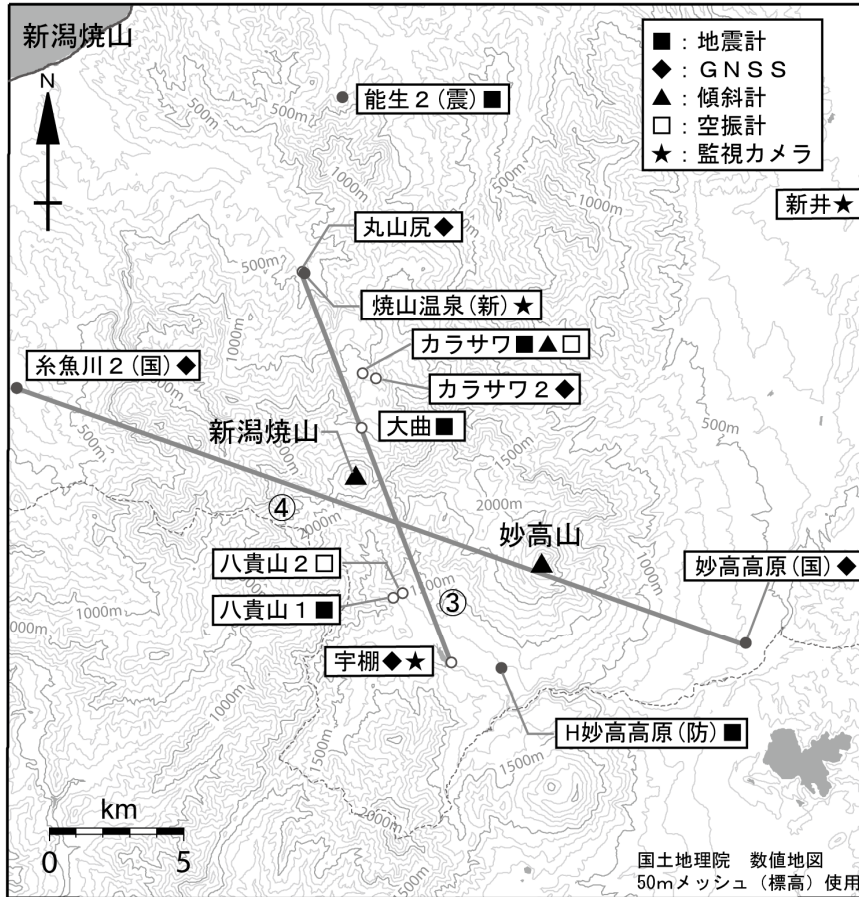
次回の火山活動解説資料（令和元年8月分）は令和元年9月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所、（新）：新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図
 （GNSS 基線③④は図3の③④に対応しています）

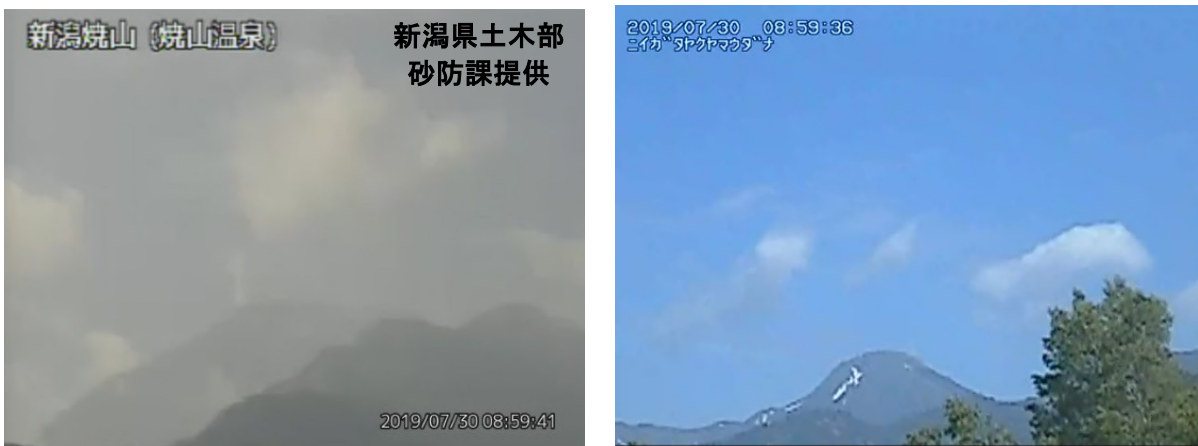


図2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況
 （左：焼山温泉監視カメラ（7月30日）、右：宇棚監視カメラ（7月30日）による）

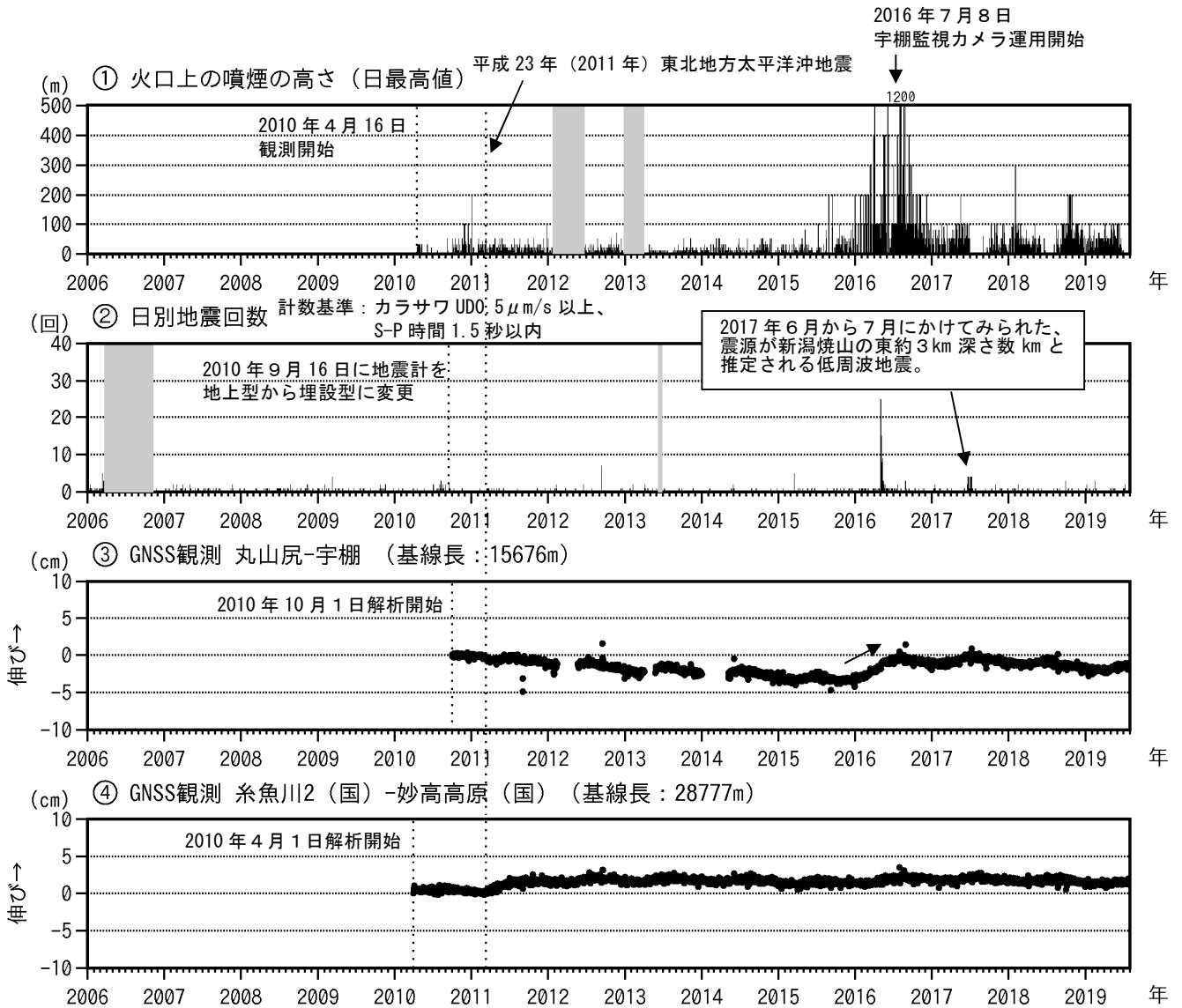


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2019年7月31日）

（国）：国土地理院

①② 灰色部分は機器障害による欠測を示します。

③④ 図1の③④に対応しています。空白部分は欠測を示します。

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上概ね80m以下で経過しました。

※夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。

・③の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられましたが、今期間、火山活動によるとみられる変動は認められません。

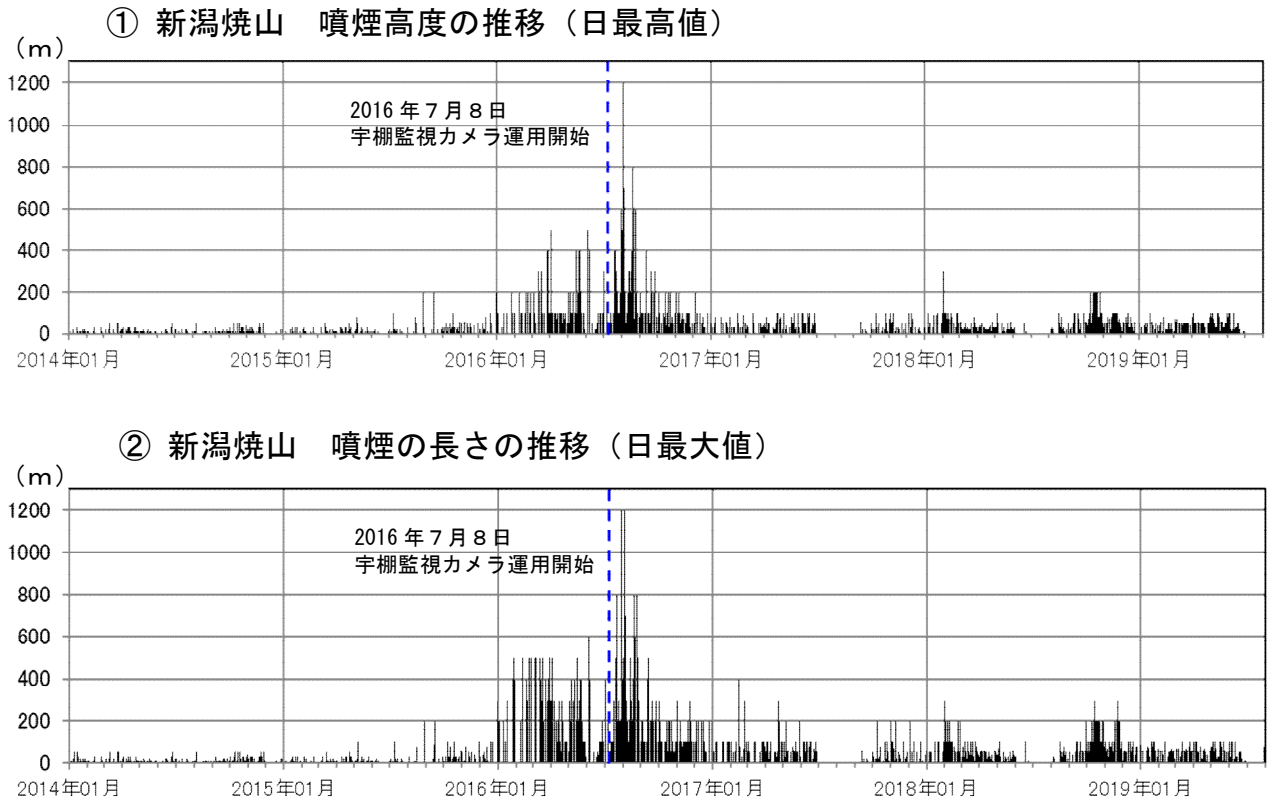


図4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

（それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2019年7月31日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図5参照）のグラフも示しています。

2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図1を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・2017年7月から8月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・2015年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015年12月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、気象条件により噴煙が高く上がる日はあるものの、2016年秋から噴煙高度は低下した状態で経過しています。

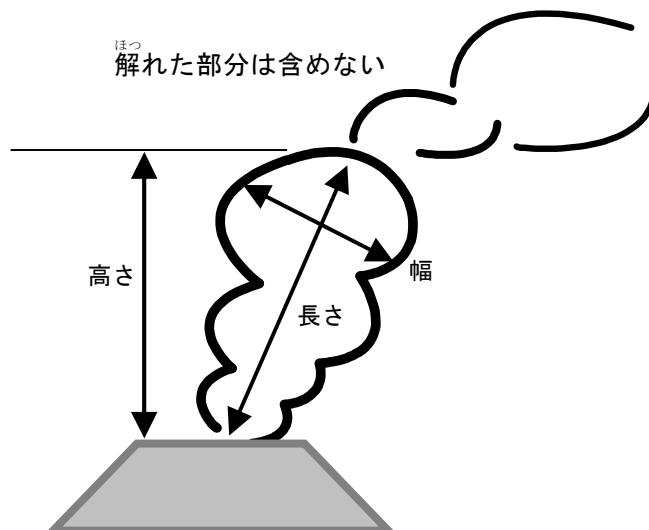
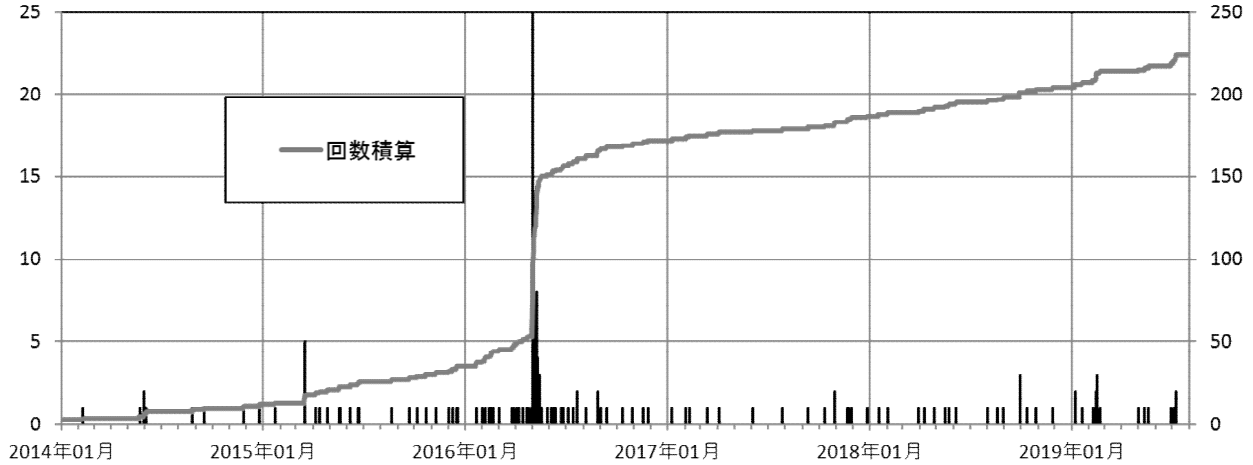


図5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

① 日別高周波地震回数と回数積算 (回：積算)
 計数基準：カラサワ UD0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.5 秒以内



② 日別低周波地震（山頂周辺）回数

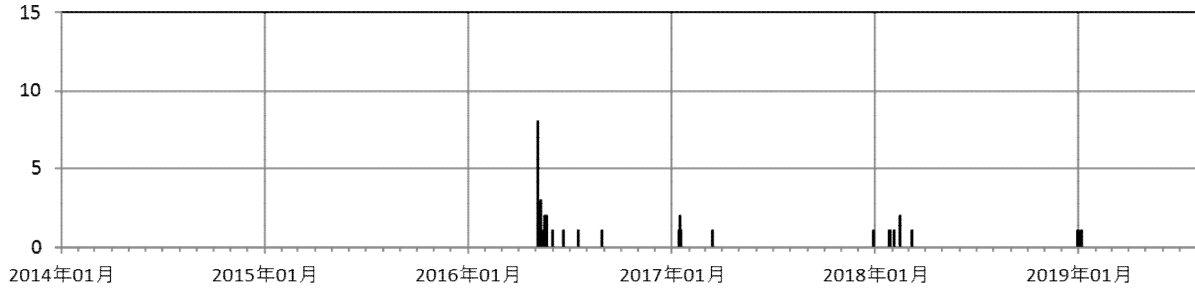


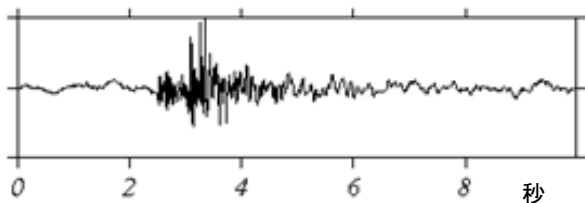
図6 新潟焼山 日別地震回数（2014年1月1日～2019年7月31日）

地震の主な種類（図7参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・2016年5月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月以降、火山性地震は減少しています。

① 高周波地震
 (A型地震)

P, S 相が明瞭で卓越周波数は
 10Hz 前後と高周波の地震



② 低周波地震
 (BL型地震)

P, S 相が不明瞭で卓越周波数が
 約3Hz 以下の地震

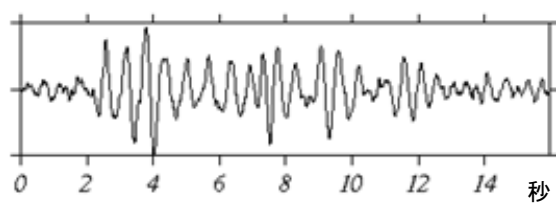


図7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

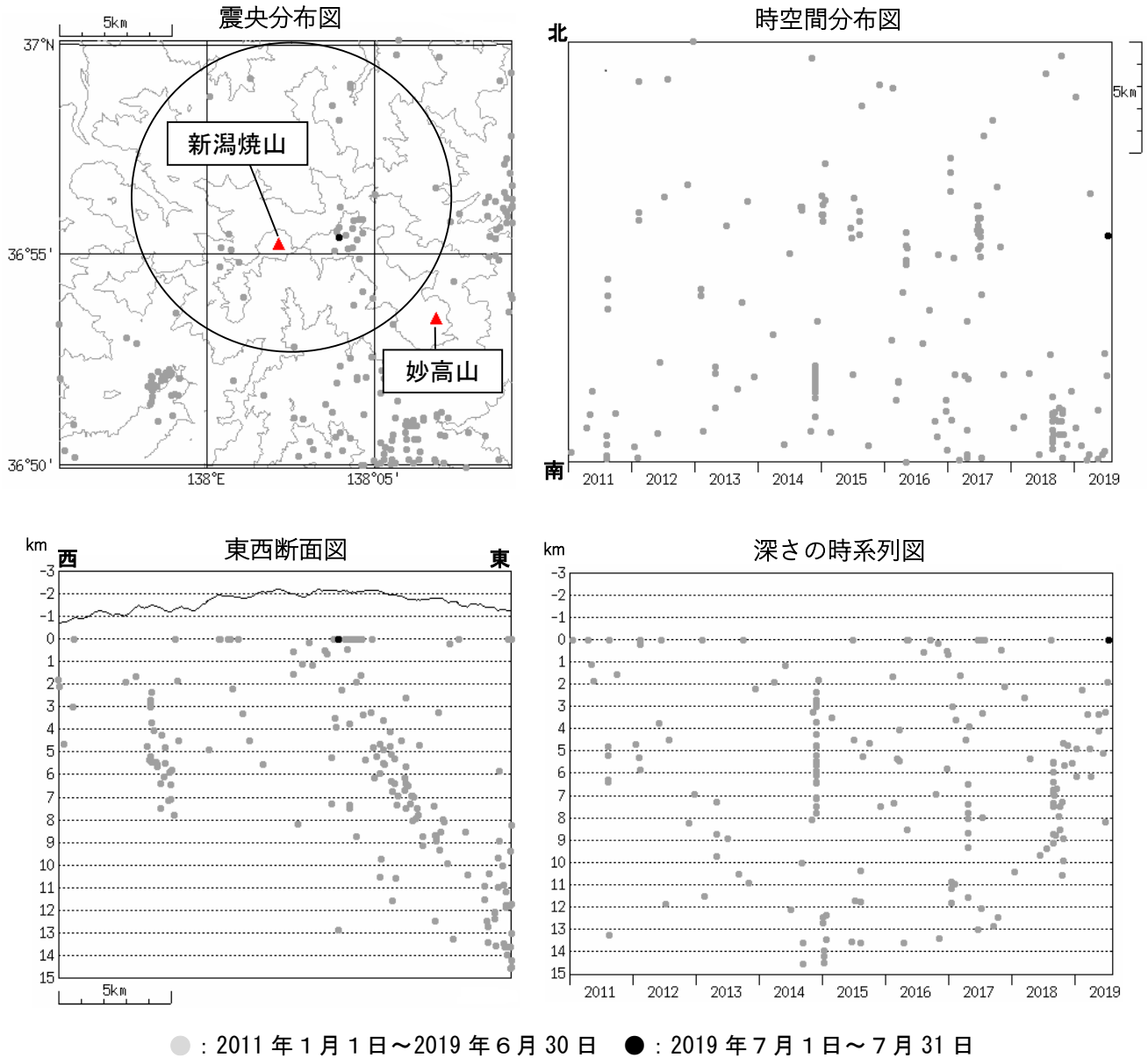


図8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2019年7月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

震源分布図中の円は新潟焼山の計数対象地震（カラサワでS-P時間1.5秒以内）のおよその範囲を示しています。

- ・今期間、新潟焼山周辺の地震は少ない状態で経過しています。